

授 業 科 目 名	ピアノ・声楽Ⅳ	教 員 名	浜月 春佳 東 清香	免許・資格 との関係	小学校教諭	選択
					幼稚園教諭	選択
授 業 形 態	演習	担当形態	クラス分け		保育士	
科 目 番 号	KY0302	配当年次	3年後期	卒 業 要 件	こども音楽療育士	
単 位 数	1単位				小幼コース	選択
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園） 教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施 行 規 則 に 定 める 科 目 区 分 又 は 事 項 等	領域に関する専門的事項（幼稚園） 教科に関する専門的事項（小学校） ・音楽					
一 般 目 標	ピアノ・声楽のより高度な演奏技術を修得する。					
到 達 目 標	<p>(1) 任意の練習曲・楽曲・連弾曲を能力に応じて修得する。</p> <p>(2) 幼児教育、児童教育で用いる歌を個人の能力に応じた伴奏形によって弾き歌いしながら指導ができるようにする。</p> <p>(3) 小学校学習指導要領に記載されている共通歌唱教材を個人の能力に応じた伴奏形によって弾き歌いしながら指導ができるようにする。</p> <p>(4) ピアノ・声楽の弾き歌いに必要な音楽理論について理解する。</p> <p>(5) ピアノのレッスンを通じて、教師の音楽性に学び、音楽を愛好する心情や、音楽に対する豊かな感性を養う。</p>					
授 業 の 概 要	本授業では、ピアノ・声楽の演奏技術を習得することによって音楽を使った活動における指導能力の向上を目指す。そのためにピアノ・声楽の演奏技術やそれに伴う音楽理論、知識をさらに高め、音楽を愛好する心情、音楽に対する豊かな感性を持った表現を目指す。具体的には、ひとこま90分のグループレッスンとし、アクティブラーニングとして相互にレッスンを聞き合うことを通じて、様々な独奏曲・連弾曲の演奏、子どもが目の前にいることを想定した子どもの歌や小学校共通歌唱教材の弾き歌いの技能を習得する。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本演習は、教育学科部のディプロマ・ポリシーに掲げる「7. 基礎的な音楽力を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	<p>第1回：学生は、教材、授業方法（一人約15分の個人指導を聴きあうグループレッスン）、流れ、試験方法、評価方法等について確認し、レッスン担当者は、ピアノ・声楽Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで習得した曲について学生のピアノ演奏を聴き、今学期の方針を立てる。（目標(1)）</p> <p>第2回：個人レッスン及びグループレッスン バイエルは能力に応じた練習曲を、バイエル修了者は任意の楽曲をレッスンする。子どもの歌は今学期の課題曲の個人の能力に応じた到達目標を把握する。また、グループレッスンにおいて、模擬活動を実施して相互に練習し、伴奏法や弾き歌い、発声など実践的なスキルを向上させる。 目標(1), (2), (3))</p> <p>第3回：個人レッスン及びグループレッスン バイエルは能力に応じた練習曲を、バイエル修了者は任意の楽曲をレッスンする。グループレッスンでは模擬活動を実施し、相互に練習しあいながら、音楽用語や理論を共通理解する。子どもの歌、共通歌唱教材を練習し、各自の能力に応じて伴奏が弾けるようにする。（目標(1), (2), (3)）</p> <p>第4回：個人レッスン及びグループレッスン バイエルは能力に応じた練習曲を、バイエル修了者は任意の楽曲をレッスンする。グループレッスンでは模擬活動を実施し、表現についてグループで考え合う。小学校学習指導要領にある、記号や音楽用語について正しく理解して演奏に反映させる。子どもの歌、共通歌唱教材は各自の能力に応じて弾き歌いできるようにする。（目標(1), (2), (3)）</p> <p>第5回：個人レッスン及びグループレッスン バイエル或いは任意の楽曲を進めてレッスンする。。グループレッスンでは模擬活動を実施す</p>					

	<p>る。子どもの歌、共通歌唱教材は、各自の能力に応じて選曲し、弾き歌いについて表現能力を高める。(目標(1), (2), (3), (4))</p> <p>第6回：個人レッスン及びグループレッスン        バイエル或いは任意の楽曲のレパートリーを拡げ、グループレッスンでは模擬活動を実施する。各自の能力に応じて課題曲から選曲し、子どもの歌、共通歌唱教材の伴奏が弾けるようにする。先生と子ども役となり、子どもの顔を見て弾き歌いできるように相互に練習をして伴奏のスキルを向上させる。(目標(2), (3), (4), (5))</p> <p>第7回：個人レッスン及びグループレッスン        バイエル或いは任意の楽曲のレパートリーを拡げ、グループレッスンでは模擬活動を実施する。各自の能力に応じて、選曲した子どもの歌、小学校共通歌唱教材の弾き歌いができるようにする。先生と子ども役となり、子どもの顔を見ながら弾き歌いできるように相互に練習をして伴奏のスキルを向上させる。(目標(2), (3), (4), (5))</p> <p>第8回：個人レッスン及びグループレッスン        バイエル或いは任意の楽曲のレパートリーを拡げ、グループレッスンでは模擬活動を実施する。各自の能力に応じて選曲し、子どもの歌、小学校共通歌唱教材の弾き歌いのスキルを向上させる。先生と子ども役となり、子どもの顔を見て弾き歌いできるように相互に練習をして伴奏のスキルを向上させる。(目標(2), (3), (4), (5))</p> <p>第9回：個人レッスン及びグループレッスン        バイエル或いは任意の楽曲のレパートリーを拡げ、試験曲をレッスンする。グループレッスンでは模擬活動を実施する。子どもの歌の課題曲及び小学校共通歌唱教材のいずれも弾き歌いできるようにする。今学期の子どもの歌、共通歌唱教材の課題曲の弾き歌いのスキルを向上させる。子どもの顔を見て弾き歌い出来るように相互に練習をして伴奏のスキルを向上させる。(目標(2), (3), (4), (5))</p> <p>第10回：個人レッスン及びグループレッスン        バイエル及び任意の楽曲の実技試験の予行を行い演奏技術、表現能力を高める。グループレッスンでは模擬活動を実施する。(目標(1), (2), (3), (4), (5))</p> <p>第11回：第1回実技試験        任意のバイエル教則本の練習曲或いは任意の楽曲を演奏する。担当講師で審査する。(目標(1))</p> <p>第12回：個人レッスン及びグループレッスン        楽曲のレパートリーを拡げ、グループレッスンでは模擬活動を実施する。これまでに練習した子どもの歌、共通歌唱教材の伴奏技能の向上を図る。課題曲の子どもの歌、共通歌唱教材の能力に応じた練習曲を進め、弾き歌いなどの演奏能力の向上を図る。(目標(4), (5))</p> <p>第13回：個人レッスン及びグループレッスン        楽曲のレパートリーを拡げ、能力に応じた練習を進め、グループレッスンでは模擬活動を実施し、実践力を高める。これまでに練習した子どもの歌、共通歌唱教材に加えて試験曲の弾き歌いの演奏能力の向上を図る。(目標(4), (5))</p> <p>第14回：個人レッスン及びグループレッスン        楽曲のレパートリーを拡げ、能力に応じた練習を進め、グループレッスンでは模擬活動を実施し、実践力を高める。これまでに練習した子どもの歌、共通歌唱教材に加えて試験曲の弾き歌いできるようにする。(目標(4), (5))</p> <p>第15回：個人レッスン及びグループレッスン        今学期の子どもの歌、共通歌唱教材の課題曲から能力に応じた試験曲を、演奏能力を向上させ、いずれも弾き歌いできるようにする。(目標(4), (5))</p> <p>定期試験：第2回目は試験期間中に実施        準備した曲について当日試験官が指定した曲を弾き歌いする。</p>
<p>学生に対する        評価</p>	<p>実技試験：第1回連弾曲45%・第2回弾き歌い試験45%        定期試験：10%        なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コメントを記載して返却する。</li> <li>・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。</li> <li>・答案例を配布する。</li> </ul>
時間外の学習について	<p>(事前・事後学習として週2時間以上行うこと。)</p> <p>事前学習：毎回、指導者より出された課題をしっかりと練習し、レッスンに備える。</p> <p>事後学習：講義内容について自分なりに整理し直し、次回授業までに何を練習するかを確認する。</p>
テキスト	<p>『バイエルピアノ教則本』(各社) 或いは任意の練習曲</p> <p>『こどもの歌ベストテン』(ドレミ楽譜出版社)</p> <p>『教員養成課程小学校音楽教育法 新版』(教育芸術社)</p>
参考書・参考資料等	<p>『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』</p> <p>『保育所保育指針〈平成29年告示〉』</p> <p>個人の能力に応じた楽曲</p>
担当者からのメッセージ	特になし
オフィスアワー	栗原・東：授業の前後の時間（メール等でアポイントを取ること。）